

食料安定供給における作物保護の役割

廣岡 卓（JCPA 農薬工業会）

概要：

世界を見れば、毎年食用作物の 20～40%が病害虫・雑草の被害によって失われ、何億人もの人々が十分な食料を入手できずに苦しんでいる。さらに、コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵略等により、農作物の供給への影響が顕在化してきている。また、世界的に農作物に与える気候変動の影響が大きく見られており、日本においても昨年は高温障害により米の等級低下が著しかった。地球沸騰化ともいわれ始めた気候変動等により、作物の生育環境や病害虫・雑草の発生態様の変化に対応した作物保護の役割が益々重要となってきた。この状況は日本だけでなく、世界で高温・乾燥等の非生物性ストレスからも作物をまもる作物保護資材への関心も高まっている。

我が国においても食料安全保障が現実問題となり、安定的な食料生産と持続可能な農業の推進が喫緊の課題となってきた。政府は昨年 12 月に食料・農業・農村政策の新たな展開方向に基づく施策の全体像を決定し、基本法改正案の国会提出を目指すとともに、「食料安全保障の強化」、「農林水産業のグリーン化」、「スマート農業等による生産性の向上」等を示した。こうした政府の方針のもと、農業現場での担い手の減少と高齢化による労働力不足の状況に、当会は作物保護に関連する産業界としてイノベーションに取り組み、農作業の省力化のための新規剤、スマート農業や総合防除に利用できる有効な資材やソリューションの提供に努めていく。

現在、新規農薬の創薬確率は十数万化合物に一剤と言われ、高額の研究開発費と、10 年以上の期間が必要である。そのため、環境に配慮し総合防除・IPM を推進しながら、農薬の抵抗性管理をしっかり行い、有効な薬剤をできるだけ長く使っていただくことが重要となる。当会では、病害虫・雑草の薬剤抵抗性発達を防ぐため、RAC コードを利用したローテーション防除について解説したリーフレット「RAC コードをご存じですか？」を用いた啓発活動を行っている。また、総合防除の実践のために、リーフレット「総合防除・IPM はこれからの農業のキーワード」を新たに作成した。

このセミナーでは、そのような趣旨にそって作物保護の役割について解説する。



以上